

地域スポーツ指導者との連携による 武道（なぎなた）授業の在り方

学校名 下関市立長府中学校（山口県）2年女子
全校児童生徒数 434名（男子227名 女子207名）
種目等 武道（なぎなた）
（本事例に係る問合せ先）
電話番号 083（246）2157
学校メールアドレス
choufuchu@edu.city.simonoseki.yamaguti.jp

1. 実践研究のねらい

- (1) 地域スポーツ指導者の専門的な指導者により、生徒の関心や意欲を高めることが期待できる。
- (2) 地域スポーツ指導者との連携により、なぎなたの歴史、礼法や伝統的な行事についての効果的な指導の在り方を探り、教員の指導力の向上を図る。

2. 実践研究の概要

(1) 課題について

初めての種目に苦手意識をもつ生徒が多く、なぎなたにマイナスの意識をもっている。

(2) 期待される成果（仮説）について

地域スポーツ指導者の専門的な指導により、なぎなたの特性や歴史を正しく理解し、なぎなたを楽しく意欲的に取り組むことができる。また、教員が様々な専門的な指導方法を学ぶことにより、教員の指導力向上につながる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1. 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

- (1) DVDの視聴を単元の1時間目に行うことで、なぎなたの特性や歴史等について視覚的に分かりやすく説明した。
- (2) 授業始めの挨拶を座礼で行うことで、礼の重要性を知ることができた。
- (3) グループ活動を積極的に取り入れることで、生徒がお互いに教え合う場面が多く見られた。
- (4) 打ち返しの相互評価により、言語による表現の場を設定することができた。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1. なぎなたの点検や安全面に配慮した練習方法の工夫について地域スポーツ指導者とともに確認した。
2. 礼法などの伝統的な行動の仕方の指導のなかで、生徒に「相手を尊重する」ことを強調して伝え、お互いに安全に留意した活動が実施できるように工夫した。

○成果の意義と今後の課題

1. 打ち返しの生徒相互評価をすることで、なぎなたの特性を理解させることにつながった。
2. 地域スポーツ指導者による実技指導が始まる前に、生徒がなぎなたの実物を見る・触れる時間があればもっと興味・関心につながったのではないかと。

○研究内容

【グループで教え合いながら練習する様子】

グループで教え合いをすることで、良い点・悪い点を指摘する様子が見られた。



【立礼・座例の様子】

普段しない座礼ではいつも以上に挨拶を大切にすることができた。立礼では、相手を尊重する気持ちを養えた。



【打ち返しの練習の様子】

ペアで1つ1つ確認しながら練習する様子が見られた。



【授業のふりかえりシートを記入する様子】

ふりかえりにより次回の課題を各自確認する。



【アンケートの結果】

事前・事後にアンケートを実施、本事業の客観的な評価を行った。

事前・事後のアンケート結果の肯定的回答の割合は以下のとおり。	(事前)	(事後)
1 運動が好きである (好き やや好き)	82.8%	→ 84.5%
2 運動は大切なものである (大切 やや大切)	93.1%	→ 87.9%
3 卒業後自主的に運動をしたい (思う)	63.8%	→ 60.3%
4 授業は楽しい (楽しい やや楽しい)	93.1%	→ 96.6%
5 授業以外でも役立てたい (そう思う ややそう思う)	70.7%	→ 75.9%

【事業終了後の取組の方向性】

～地域と連携して～

生徒たちが、実際の体験や専門的な指導を受けることは、子どもたちに「生きる力」を育むために極めて重要である。そのためには、家庭・地域と連携した教育活動を積極的に進め、地域とともにある学校づくりを目指して、さらに推進していくことが重要である。